

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 21 年 2 月 12 日 (木)

文理融合リベラルアーツ科目を受講して — 受講学生の意見 —

色・音・香7「舞踊における色・音・香」受講生

小林 由季 (文教育学部 人間社会科学科2年)

鈴木 美由希 (文教育学部 人間社会科学科2年)

舞踊における色・音・香

小林由季 鈴木美由希
文教育学部 人間社会化学科 教育 2年

(小林由)

それではまず、この授業の特徴について説明したいと思います。

この授業は、さまざまな舞踊を色・音・香という言葉キーワードにして見ていきました。講義の形態としては、オムニバス形式の講義で、毎回違う舞踊を取り上げました。その際には、外部から各分野のプロの方をゲスト講師としてお招きし、お話ししていただきました。そしてゲスト講師の方は、その方にお話ししていただくだけではなく、私たち学生が実際に衣装を試着したりなどの参加体験型の授業でした。

これがそのときの写真で、向かって左側が能のときの写真で、天女の衣装を着ています。仮面でちょっと顔は見えないのですが、学生が着ていて、着付けをしているのは宝生流の能楽師の佐野先生に着付けを直々にしていただきました。

向かって右側の写真は、マリ共和国、アフリカの民族衣装で、これは舞踊の衣装ではないのですが、その国の文化に触れるということで、普段着のワンピースを、このときは私が着させてもらいました。また、衣装の試着以外にも、能のときには鼓や笛など、楽器の演奏を実際にさせていただいたり、朝鮮舞踊のときには金剛山歌劇団の方がいらっしゃったのですが、その方に振り付けを習って、学生と金剛山歌劇団の方が一緒に踊ったりもしました。また、毎回映像資料がとても豊富に用意されていて、とても充実していました。

(鈴木美)

次によかった点です。一つ目に、プロの方が講師として来ていただきました。普通の授業では、本物の舞踏家の人と対面して話す機会というのはほとんどないと思うのですが、この授業であったからこそ、本物に触れることができたと思います。

二つ目に、オムニバス形式で講義が進んでいきました。毎回いろいろな分野の方のお話を聞くことができました。例えばバリ舞踊から始まって、韓国や朝鮮舞踊、また日本の能楽、アフリカの舞踊、さまざまな踊りがあったのですが、地域性・文化性というものもありましたし、文化によって多様な踊りがあるということが分かりました。とてもそこまで及んでいなかったような、モダンダンスというよりは、私がイメージしていた踊りというものがどれだけ狭かったのかということが分かり、また、コンテンポラリーダンスからクラシックのバレエまでというような、多様な時代性を学ぶことができました。

三つ目に、先生から講演のお知らせや参考文献などのご紹介があり、授業の時間だけで終わるのではなく、その後に自分から読んでみようかなと思ったり、舞台を見に行こうかなと思ったり、活発に学習を進めることができたと思います。

また、最後に文理融合の事例が具体的に提示されていました。例えばモーションキャプチャによる動作解析というものがあったのですが、これは人が踊っているところを撮影して、その身体の動きだったり、関節の動きというものをより詳しく解析することができる手法です。一見、踊りというのはテクノロジーとか科学とはあまり関係ないのかなど私は思っていたのですが、踊りを記録したり、解析したりすることに、パソコンなど、最新の情報テクノロジーが使われているということに私はとても驚いて、新鮮さを感じました。

(小林由)

3点目に、この授業に対する私たち学生からの提案です。まず、ゲスト講師の講義が終わった後にディスカッションの時間があったのですが、それが授業ごとにまちまちで、授業の内容が盛りだくさんすぎて、その時間が取れなくて、ちょっと物足りないなど感じる時もありました。

1. 授業の様子

- ◆ 「色・音・香」を切り口にした授業
- ◆ 多様なゲスト講師
- ◆ オムニバス形式の講義
- ◆ 参加体験型
 - 衣装の試着
 - 楽器の演奏
 - 舞踊の振り付け
- ◆ 映像資料が豊富



能：天女の衣装 マリ共和国

2. 良かった点

- ◆ 「ほんもの」に触れられた
- ◆ 舞踊の多様性が感じられた
- ◆ 文理融合の可能性
 - cf) ノーテーション
 - モーションキャプチャ
- ◆ オムニバス形式の授業

また、ディスカッションはゲスト講師の方に対して学生が質問をするという形式だったのですが、せっかく先生がその時間を用意してくださったのに、学生たちから質問や意見があまり活発に出ませんでした。私なりにちょっと考えてみたのですが、先ほど映像資料が豊富だったと言ったのですが、ちょっと盛りだくさんすぎて、考える時間が確保できなかったのかなと感じました。なので、毎回最後の時間は15分、ディスカッションの時間を確保したり、あと、大人数のディスカッションだと、私は舞踊に対する知識があまりなくて、私より舞踊の知識がある方が鋭い質問などをされると、私がこんなレベルの低い質問をするよりは、もっと舞踊に詳しい人が質問して議論を深めていただいた方がいいのではないかと、ちょっと遠慮がちになってしまって、発言が消極的になってしまうので、小から中グループ単位での話し合いをすることによって親密感が増して、もっとディスカッションや意見が活発になるのではないかと思います。

3. 改善点・提案

- ◆ ディスカッションの充実
小〜中グループ単位の秀が話しやすい
- ◆ 時間配分と機材の準備
- ◆ 授業の切り口
「色・音・香」に縛られすぎではないか
- ◆ 講師の連携の強化

(鈴木美)

次に、色・音・香以外のアプローチもあるとよいのではないかと感じたということ、各回の授業構成のつながりがもっとほしいということです。この授業では、それぞれの舞踊について、色なら衣装が持つ意味、音ならその舞踊が持つ音楽の特徴。バレエや日本の音楽は全然違うのを、想像していただければ分かると思うのですが、それについて紹介していただいたのですが、韓国と朝鮮舞踊について学んだときに、それら二つの踊りは過去、南北に分断されたという歴史的背景を持って、それぞれ舞踊が発展していったのです。なので、私はその事実を知ったときに、色・音・香だけではなく、歴史性という面からも、この舞踊についてもっと見ていきたいなと感じたことがあったので、色と香以外のアプローチもあるとうれしいなと思いました。

た、外部から講師の方を呼んでいるので、ちょっと大変だとは思いますが、例えばバレエなら、色・音・香を紹介して、その中でも特に今回は色に特化してとか、今回は朝鮮舞踊についてやるけれども、色・音・香の中でも特に音楽についてなど、どれか焦点を絞って授業して、各回の授業につながりを持たせると、さらに授業全体として理解が深まるのではないかと思います。

(小林由)

最後にまとめをします。最初に講師による実演、楽器演奏、衣装試着など、私たち個人ではきつとできなかったであろう貴重な体験ができたことが挙げられます。

また、私は教育科学を学んでいるのですが、教育のことばかりやっているのではなくて、いろいろな視点を身に付けることができました。舞踊ということは私の日常生活にはあまり関係のないことかなと思っていたのですが、自分でちょっと舞台を見に行きたいなと思ったり、衣装がすぐきれいだから、そういう展示会とかがあったら行ってみたいなと思ったり、興味の幅が広がりました。

4. 授業に対する感想

- ◆ 楽器や衣装に触れることができた
- ◆ 映像が多くわかりやすかった
- ◆ 様々な表現があることを学んだ
- ◆ 装置が次につながる工夫
公演の紹介、参考文献など

また、舞踊の美しさや楽しさを感じることができました。これはいろいろな映像資料が豊富にあり、また先生も踊ってくださったので、本当に目の前で人が踊っていると、その人の楽しさとか、その人がきれいだなと思える瞬間というものがある、そういうものに触れられて、私はとてもいい経験になりました。

また、授業の枠にとらわれない、舞踊全体に対して関心を持ったということですが、これは先ほども言いましたが、授業の時間だけではなくて、自分の専門だけではなくて、いろいろな分野に目を向けてみようと思ったり、自分で足を運んで何かを見に行こうと思ったり、そういう気持ちを持つことができたということです。

最後に私たちからの提言ですが、ディスカッションの形態や時間の確保などを工夫していただくと、本物の人たちと触れ合っ、より学びが深まったのではないかと思います。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

ありがとうございました

